



船舶事故分析集

BRM／BTMの有効活用に向けて

1. はじめに	1
2. BRM／BTMとは	1
3. BRM／BTMが機能しなかったことが事故要因に含まれる事故事例	4
4. 事業者・団体へのインタビュー	10
5. まとめ	13

1. はじめに

船舶の技術革新や、船舶・船員に関する条約の締結・法令等の整備など船舶事故を防ぐ取組は年々進歩してきました。しかしながら、運航の現場では、今もなお、船橋の物的・人的資源（リソース）を有効に活用していれば防ぐことができたと思われる事故が発生しています。

例を挙げると

- ・「形ばかりの引継ぎとなり、船長が船位を把握しておらず旅客フェリーが消波ブロックに衝突した事故」
 - ・「夜間に、交通量が多く複雑な見合い関係が生じる海域で、船長が操船技量に不安を持つ航海士に操船指揮を任せて降橋し、コンテナ船と貨物船が衝突した事故」
- 等が発生しており、船舶の沈没や死傷者が出るなどの被害も出ています。

本ダイジェストでは、事故事例を解説するとともに、安全運航のため船橋内の資源を有効活用する考え方の1つである「BRM／BTM」に基づいた事故防止のポイントを紹介します。

2. BRM／BTMとは

BRM（ブリッジ・リソース・マネジメント）は、安全運航を達成するために船橋で利用可能なあらゆるものを有効活用すること。

BTM（ブリッジ・チーム・マネジメント）は、安全運航を達成するために船橋の乗組員を連携活用すること。

とされています。BRMとBTMはいずれも船橋チームの機能を活性化させ、船舶の安全運航を達成することを目的とすることで共通しています。まずはBRMの考え方の基になったCRM（クルー・リソース・マネジメント）の成り立ちから説明します。

CRMとは、航空機の安全運航を達成するために、全ての人的リソース（航空機乗組員、運航管